文部科学省 地(知)の拠点 ふるさといわて創造プロジェクト

ふるさといわて創造レター

FURUSATO IWATE 5020 LETTER

2019. 01 第13号

［発行者］ふるさといわて創造協議会事務局　岩手大学COC推進室　Tel. 019-621-6053 E-mail cocplus@iwate-u.ac.jp

「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2018」を開催しました

12月15日(土)、滝沢市の岩手産業文化センター（アピオ）で「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2018」を開催しました。

この大交流会は、県内にどのような企業があるか知らない学生が多いため、まずは低学年次の学生に地元企業を知ってもらい、県内就職への関心を高めてもらうことを目的としたイベントです。昨年に続き2回目の開催となった今年は、県内の企業・自治体・NPOなど205団体が出展。県内高等教育機関の学生を中心に約1,700名が参加し、活況を呈しました。

今年も学生実行委員がイベントに主体的に関わり、出展団体への事前取材・紹介記事作成、SNS等での情報発信、当日の司会進行、受付など運営全般に精力的に取り組みました。

昨年同様、基本的にスーツ着用を禁止とし、出展団体からご提供頂いた様々な景品が当たる抽選会を実施するなど、大人も学生も肩の力を抜いて楽しみながら交流できるイベントを目指しました。

運営企画には様々な部分に学生のアイデアが活かされました。出展ブースのレイアウトは学生の発案により、会場を岩手県の地図に見立て、出展団体を所在地のエリアで分けて配置しました。また、来場者による人気ブースの投票では、学生がスマートフォン用の投票フォームと集計ツールを製作。昨年は各ブースに設置したパネルにシールを貼ってもらいましたが、今年は来場者が自分のスマートフォンから投票できるシステムを用意しました。

各ブースでは出展者がそれぞれ創意工夫と熱意にあふれたプレゼンテーションを繰り広げ、学生は製品・技術、業務内容や会社の雰囲気について質問するなど、ざっくばらんなやり取りをしながら交流を深めました。

参加した学生からは「このような機会でないと出会えない企業も多く、将来の選択肢を広げることができた」、「あまりなじみのない企業についても新たに知ることができた。普段私たちが見ている裏側で沢山の努力や仕事をされているということが改めて感じられた」、「岩手のまちづくりに携わるたくさんの人の頑張りを知ることができた。自分も何か携われることがあれば積極的に行動していきたい」、「自分の持っているステレオタイプなイメージが覆るような体験ができた」などの感想が寄せられています。

学生にとって、いきいきと働く社会人の生の声を聞くことは社会のありようを学ぶ機会となり、県内就職という選択の視野が広がっただけでなく、自らの生き方を考えるきっかけにもなったようです。

この大交流会を入り口に、学生が県内就職に対する関心をさらに深めてもらえるよう、今後もCOC+の取組を推進していきます。

併催イベント

当日は市職員や介護の仕事について理解を深めるフォーラムなど、幅広いテーマの5つのイベントが併催されました。講演のほか、グループワーク、VR装置や車いすを使った疑似体験など形式も多岐にわたりました。各イベントとも多くの学生らが参加し、盛況となりました。

イベント名	主催者
市職員のシゴトっていろいろある ～約10年の経験から伝えられること～	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構
聴いて視て体験！知っ得介護 ～介護職員のリアルトークとVRによる職場見学～	厚生労働省岩手労働局
インターンシップフォーラム「インターンシップで見つけよう！」	ふるさといわて創造協議会 地域定着WG
現役ゲームクリエイターが語る、北東北と最新デジタルエンタメ技術	岩手県商工労働観光部 商工企画室
いわて就職面接会Ⅳ	公益財団法人 ふるさといわて定住財団

いわてキボウスター開拓塾が経産省・中小企業庁「創業機運醸成賞」を受賞しました

ふるさといわて創造プロジェクトの一環として、学生の起業マインドを養成する正課外の講座「いわてキボウスター開拓塾」が、この度、経済産業省・中小企業庁「創業機運醸成賞」を受賞しました。

「創業機運醸成賞」とは、開業率向上を目指すためには、創業に無関心な層に創業を意識してもらうことが重要であることから、地域における創業に関心をもたせる継続的な取組を経済産業省・中小企業庁が表彰する制度です。今年度は、全国の企業、NPO、教育機関などから20団体が選ばれました。

受賞のことば

いわてキボウスター開拓塾　塾長
赤木徳顕

今回の受賞は、学生がビジネスコンテストで何かを受賞するより、いわてキボウスター開拓塾（キボスタ）に関わる皆さんにとっても嬉しい便りだと私は思っています。それはキボスタが学生を中心として「新しいことを始める」ことに前向きなコミュニティであることを評価して頂けたと感じているからです。キボスタが始まって2年半、今までに65名の学生が本講座を修了し、やっと1期生が来春から卒業のタイミングを迎えつつありますが、県内のベンチャー企業に経営の右腕として就職していくケースがいくつか見られるようになりました。私は65名のうち1人の飛び抜けた起業家（アントレプレナー）が生まれるよりは、十数名が起業家の右腕（アントレ・オフィサー）となったり、残りの50数名がそのような活動を応援できる人材（アントレ・サポーター）になってくれるよう、学生たちに伴走してきたつもりです。この受賞を励みにして、このコミュニティが更に大きくなるよう努めて参りたいと存じます。

いわてキボウスター開拓塾参加学生が産業界と意見交換を行いました

2016年10月に取組がスタートし、現在第5期目となったいわてキボウスター開拓塾。その取組には地元産業界からも関心が集まっています。これまで、塾生・修了生は地域で新たなことに挑戦する若者の立場から地元産業界の様々な会議に参加し、自ら考えたビジネスプランや地域問題解決等について発表し、出席者との意見交換・交流を行う機会を頂きました。

ここでは、盛岡工業クラブ第104回定例懇談会（2018年9月）及び岩手経済同友会「平成30年度 第1回人づくり委員会」（同11月）の様子について学生のコメントとともにご紹介します。

盛岡工業クラブ第104回定例懇談会

9月11日、ホテルメトロポリタン盛岡で開かれた盛岡工業クラブ第104回定例懇談会では、修了生10名がまちづくり、ものづくり、農業など5つのビジネスプランについて発表し、出席した会員からは活動に協力して頂けそうな企業の紹介や実現化に向けての具体的なアドバイスなどを頂きました。

岩手県立大学
社会福祉学部3年
浅井田 望美
（第4期修了生）

私のチームは、第4期で取り組んだ二戸の新たなまちづくりの提案について発表を行いました。準備不足な部分もあり、当日は数多くのご指摘を頂きましたが、少しずつ前に進める気持ちになれたのが嬉しかったです。

第4期の取組から時間が経ち、活動の場所も二戸から変わるかもしれませんが、たとえ場所が変わっても、まちづくりについてはこれからも前向きに活動を継続させていきたいと思っています。

岩手経済同友会「平成30年度 第1回人づくり委員会」

11月15日にホテルメトロポリタン盛岡で開かれた岩手経済同友会「平成30年度 第1回人づくり委員会」では、修了生3名が参加し、農業、観光、教育など3つのビジネスプランを発表し、出席した会員からは「自社の今後の取組みの参考になった」、「ぜひ一緒に何かやりたい」などの声を頂きました。

岩手大学工学部4年
樋口修也
（第1期修了生）

私は第1期修了後、ある学生キャリア支援団体の支部長を務める中で、「地元でカッコイイ社会人が見つからない」と感じている学生と、「学生の価値観を知りたいのに知る機会がない」と感じている地元企業のミスマッチがあるという課題を見つけました。　そこで当日、「企業ではなく、働いている人を知る」という目的で社員と学生が交流するイベントの開催を提案したところ、多くの方々から賛同を頂きました。頂いた意見の中で強く印象に残ったのが「新しいことに挑戦したいという学生の気持ちは理解できる。一方で、岩手にその活動がどう貢献できるのか、その視点も大切である」という指摘です。取組を学生と地域、双方に意味のあるものにする必要があると感じました。

岩手大学理工学部生企業見学会を実施しました

岩手大学の入学定員1,030名のうち440名が理工学部生ですが、卒業生の多くは県外企業に就職し、地元企業に就職する学生が少ないのが現状です。その一方、岩手県内には北上川流域を中心に多くのものづくり企業が立地しており、大卒人材を求めていますが、学生が立地企業を知る機会が少ないのが課題でした。

そこで、岩手大学COC推進室では、ふるさといわて創造プロジェクトの取組として岩手県や北上川流域自治体との連携による理工学部生を対象とする「ものづくり企業見学会」を昨年度から開催しており、今年度は次の2コースを実施しました。

No.	実施日	学科・コース	参加人数	見学先
1	9月21日（金）	システム創成工学科 電気電子通信コース	3年生22名 教員3名	東芝メモリ岩手株式会社 株式会社ジャパンセミコンダクター アイシン東北株式会社
2	9月26日（水）	化学・生命理工学科 化学コース	3年生61名 教員3名	東日本機電開発株式会社 関東化学株式会社岩手工場 株式会社フジキン東北工場

参加した学生は、工場見学や若手社員との意見交換などを通じて、より良い製品を作る会社の姿勢や社内での人材育成などに共感したようで、多くの学生から役に立ったという感想が寄せられました。